

賛成派

発言者名

反対派

賛成派主張の論旨 ①

必ず確認

反対派主張の論旨

A田村: 法律違反ではない。クジラの生態情報、資源管理の情報を
あみまにしない、しかつしたデータの為。
商業の為に捕鯨ではない。

クジラは魚とたくさん食べる。→クジラ増=魚の減少

絶滅危惧種のクジラは3種。他のクジラは大丈夫。

クジラ健全 RMPという計算により資源管理できる。

B田中: 4%の捕鯨量だとクジラが増える。

3B田中: クジラ国の需率の衰退。経済的な面で需率の衰退。
海外からの注文をおしきりしてやがて需率があるのか。
クジラやイルカの肉は欧米では人肉を食べるのと同じ。

3C山田: クジラ類の水産量が危ない。

3A山田: どうしてカバリスムなのか? 定義は?

3B田中: 有償漁業か無償かをどの所持のクジラを食べるのかわかる。

賛成派反論の論旨 ②

反対派反論の論旨 ④

① 3B岸田: 魚の減少の具体的な説明は?
(12/20)
温暖化などは関係ないのか?

② 3C山田: アメリカの捕鯨量(水産省のデータ) (資料)
2013年10月頃

3B田中: 日本は1%しか捕鯨していない。

3B田村: ホンゴククジラは3000頭ほどしかいない。

3B山田: どこで食べる? どのように管理する?

3B田中: 沼津など、地産地消。

③ B山田: 調査費用が前年に得られた金から痛手ではない。
満足ではない。

B田村: 条約で可能な限り売さなければならぬ。加えて、
商業捕鯨ではない。

B田中: 50億円はくりした。

A田村: 反対はアメリカやオーストラリア。牛肉や鶏肉を輸入、反対理由は

B田村: 魚の輸出の量が減る。需要を減らす。B山田: 水産省のデータは、
クジラは調査捕鯨量より低値の値のものもある。

賛成派再反論の論旨 ③

反対派再反論の論旨

① A田村: 今の魚が減ったから、クジラはクジラなど食べるものがない。
温暖化などで減らして考えずらい。

B山田: クジラの食データ。平均して約90% (4月頃)

B山田: 1月55%、クジラ 3000頭。

本年8月、クジラが食べられていないか?

昨日は1頭しかとっていない。完成しているのかわからないか?

C山田: 調査の目的と違っている。商業捕鯨ではないか?

③ B田村: 今後、クジラ肉が売れたらアメリカやオーストラリアが困る。肉。
未来の話。また、捕鯨量が増えてきたら増える。

B田中: クジラが増える一匹一匹がやせている。

B田村: 脂肪0.4%。ガエツアムから捕鯨量が増える。経済的に、
魚の減少も海産物の収入の減少が大きい。

賛成派総括

反対派総括

A田村: 持続的にクジラと関わる為のデータ。

B田村: クジラが食べられてるのは、捕鯨量だから。

A田村: 世帯調査 77% 捕鯨賛成 (アメリカ) 肉、政治的な反対
はないか。

B山田: 捕鯨量データポイントが完全な法。
科学的な研究が逸脱している。

B山田: クジラを食べても牛肉を食べている。肉が必要ではない。

条約違反とされたら、やるべき。

調査は完了したからやるべき。

クジラの減少に魚は関係ない。

判定 → ジャッジはどちらの論旨に納得したか次の評価欄に○を記入。その理由をその場で講評してください。